

1/30

台湾はカラフル！多様な文化について学ぶ 訪日観光コーディネーターとの交流会

台湾の多様な文化について学ぶ交流会が、いきいき元気館で開催されました。台湾出身で市訪日観光コーディネーターの林 詔 伶^{りんしょうれい}さんを講師に台湾の地理や気候、多様な民族や言語について理解を深めました。

また、ゲストには、令和2年12月に友好交流都市協定を結んだ台湾高雄市鼓山区^{たかお こざん}の出身で、現在は射水市在住^{りゅう}の劉 晏君^{りゅうえんくん}さんをお招きしました。市出身の実業家・浅野総一郎翁が、小さな漁村だった高雄を工業都市へ、そして台湾の近代化へ発展する礎を作った功績を紹介しました。今後も台湾との交流に目が離せませんね！



2 / 1

障がい者支援のために ご寄付をいただきました

小松製作所 人事部ビジネスクリエーションセンタ（BCC）氷見分室から「市内の障がい者支援に役立ててもらいたい」と寄付金をいただきました。

同社は、2008年にBCCを設立し、障がいを持つ人々の自立を目指して就業を促進しています。

角田 BCC 氷見分室長は「生き生きと働き自立心が向上するよう個性を重視し、サポート人材の育成にも力を入れています」と語り、澤市民部長は「障がい者の就労についての理解が深まり、このような取り組みが広がるよう、市としても参考にさせていただきます」と語りました。



2 / 2

鬼と「コロナ大王」もやっつけるぞ 宇波保育園で豆まき

宇波保育園で豆まきが行われました。園児は、自分で顔を描いた福のお面を頭に付けて、「鬼は外！福は内！」と声を合わせて節分の歌や踊りを楽しみました。

保育士が扮した「コロナ大王」が現れると、お豆だま（スポンジボール）を投げ、コロナ大王を追い払いました。また、保育士の「泣き虫鬼」や「寝坊助鬼」を退治するため、鬼の面をつけた保育士に豆を投げ、心の鬼を退治しました。

宇波保育園は、入所する園児が少なくなったことから令和3年3月で閉園しますが、園内は子どもたちの春を呼ぶ元気な声であふれていました。

